

令和7年度 江戸川区立鹿本小学校 学校関係者評価報告書（学校経営計画・学校関係者評価シート）

学校教育目標	◎考える子 ○やさしい子 ○たくましい子	目指す学校像 目指す生徒像 目指す教師像	目指す学校「6年生があこがれの存在である学校」 ・一人一人のよさをのびし、人としての基礎をつくる。 ・子供を育てる情熱と向上心をもった人（教員をつくる） ・地域のコミュニティとしての機能を果たし、地域発展の核となる。 ・夢をもち、夢をはくくみ、夢を伝え合う。
前年度までの本校の現状	成果 ・全国学力調査や定着度調査等の結果を分析して児童の課題を把握し、改善に努めたことで、少しずつ基礎・基本が身に付いてきた。 ・学習規律や生活指導において、全教職員が共通した指導を行うことで、学校全体が落ち着き、集中して学習に取り組めるようになってきた。	課題	○基礎的・基本的な学力が定着していない児童がまだまだ多く見られる。意欲をもって粘り強く課題に取り組む態度を育てることが課題である。 ○個別に対応しなければならない児童が多く在籍しており、それぞれの児童にどのように対応していくかを考える必要がある。

重点	取組項目	具体的な取組内容	数値目標	達成度		「中間」自己（学校）評価（A～D）		「中間」学校関係者評価（A～D）		「年度末」自己（学校）評価（A～D）		「年度末」学校関係者評価（A～D）		次年度に向けた改善案
				9月	2月	評価	コメント	評価	コメント	評価	コメント	評価	コメント	
学力向上	○基礎的・基本的な確かな学力の定着	○週1回の習字学習タイムを「チャレスタ」として全校で取り組み、ミライシート、東京ベリック・ドリルを取り組ませ、学習カルテで進捗を確認し、基礎・基本の定着を図る。 ○算数授業スタンダードの徹底。 ○水曜日4時間授業終了後15分間を基礎学力定着の時間に設定する。【マスターパン】 ○学力調査分析を基に、全学年で取り組む学力向上の重点を絞ってプランを作成し、校内OJTで理解を深め、重点を日々の授業に反映させる。	○チャレスタを年間35回以上実施する。 ○算数授業スタンダードに基づいた授業を教員の100%が実施する。 ○マスターパンビを年間で13回実施する。 ○10月までに授業改善プランを作成する。	B	B	B	○習字学習（チャレスタ）は、1学期15回実施、マスターパンビは、1学期3回実施、計画通りに進めている。進捗を促すミライシートやドリルパークに取り組んでいる。 ○OJの算数授業スタンダードに基づいた授業を実施している。1学期、全教員の算数を授業観察し、指導助言し、学力定着を図っている。 ○6年生で実施した全国学力調査の7月中旬に結果が出まじ、現在学力向上委員会が、分析を進めている。	B	○基礎・基本を定着させる高にもドリルは有効だと思えます。 ○「マスターパン」を続けてください。 ○現在の状況を踏まえて引き続きお願いします。	B	○OJの「算数授業スタンダード」に基づいた授業を推進した。 ○週1回の習字学習タイムを「チャレスタ」として全校で取り組み、ミライシート、東京ベリック・ドリルに取り組ませた。 ○マスターパンビとして、年13回設定し、基礎学力定着の時間に設定し実施することができた。 ○算数では、正答率の低い問題を復習する時間を多く設けた。診断テストの正答率を全学年目標値の55%以上まで引き上げることができた。	B	○ドリルで基礎・基本を学ぶことで学力向上につながると思えます。これからもお願いします。 ○振り返りことで成果が出たと思えます。継続をお願いします。	○東京ベリックドリルやミライシート、まじむわワークシート等取組が多いので、取組ごとで重点を示し、効果的に実施できるようにしたい。 例 東京ベリックドリル診断シートでは、正答率の低い単元の学習では、重点的に、授業で扱ったり、適応問題を復習したりし、継続的に行う。
	○読書科の更なる充実	○資料の収集の仕方や記録の取り方の指導、自己の考えをまとめ表現する方法の指導、読書と1単位時間の授業との関連付け、他教科との関連付け等を行っていく。	○年間35時間の読書科の授業時間を確保する。	B	B	B	○1学期は、各学年計画通りに進められている。	B	○自己の考えをまとめ表現することは大切なことと思えます。 ○継続をお願いします。	B	○年間指導計画通りに実施することができ、成果物を作成する中で学校図書館を活用することができた。	B	○読書をする事で自分の考えをまとめて、表現することが高まります。 ○成果物の発表する場があるといえますね。	○年度末に読書科年間指導計画を見直し、さらに充実した取組になるようにする。
	○授業改善	○学校としての自己点検や自己評価を行い、積極的に改善を図っていく。 ○授業改善推進プランや校内研修を活用し、「わかる授業」「楽しい授業」の実現を図る。	○全国学力・学習状況調査の結果を基に10月までに授業改善推進プランを作成する。	B	B	B	○授業改善は、管理職における授業観察後の指導助言や教員に担任と担任とが連携し、授業づくりに関して話し合う等より授業づくりに努めている。校内研修では、夏休みに講師の先生を呼び、2学期から行う研究授業に向けて指導していただいた。	A	○単学級なので、前任任のように相談や協力できる教員が揃っていることは担任にとってよいと思えます。 ○学校が結果をどう分析しているかを知ることがいいと思えます。 ○現在の状況を踏まえて引き続きお願いします。	B	○全国学力・学習状況調査の結果分析を、授業改善推進プランを作成し、授業改善に努めている。 ○1年生と5年生で国語科の校内研究授業を実施した。	A	○自己点検や自己評価を自分でとらえることが改善のきっかけになると思います。 ○改善点を共有して底上げしてください。	○全国学力・学習状況調査の結果分析を踏まえ、主体的で深い学びを実現できるよう校内研究等を活用して授業改善していく。
体力向上	○運動意欲や基礎体力の向上	○ランスタッド（豊橋校庭3周ジョギング）の全校児童一斉実施する。 ○江戸川っ子なわ跳びチャレンジを推進する。	○ランスタッドの参加率95%以上を目指す。 ○江戸川っ子なわ跳びチャレンジで目標を達成する児童の割合を20%増加させる。	B	A	B	○ランスタッドは、だいぶ習慣化してきた。江戸川っ子なわ跳びチャレンジは1学期実施。今年度から条件クリアで指導員となり、他の人に教えられるようにした。指導員は校長に声をかけ、運動の意欲付けにしている。	A	○毎日朝ランスタッドを3周して、縄跳びをして、体力向上にがんばっています。 ○継続をお願いします。	A	○ランスタッドを1年間継続して行うことができた。豊橋校庭の参加が盛況だった。 ○各学年、縄跳びウォークを実施できた。縄跳び指導員は全校で123名になり、児童の意欲付けの一助となった。今後は、指導員がアドバイザーし、さらに跳べる児童が増えるようにしていきたい。	B	○ジョギングや縄跳びで体力向上にしたいです。 ○楽しく体力向上につなげてほしい。	○ランスタッドは、準備や運営を児童の委員が主導で行い、児童が主体的に取り組めるように工夫して、運動の日常化につなげていく。 ○縄跳び指導員がさらに活躍できるように異学年での教え合いが活発になるようにする。 ○体育主任が体力テストの結果分析から授業改善の取り組みを提案する。
	○週1回のクラス遊びを通して、体力向上のきっかけをつくる。担任が運動遊びに関わることで、普段の休み時間の過ごし方を見直すとともに、集団で遊び経験を積ませる。	○クラス遊びを年間30回以上実施する。	B	B	B	○担任が一掃に遊んだり、遊びを見守ったりしている。	A	○置換は着すきで校庭で遊べなかったと思うので、その分これから思い切り校庭で遊んでほしい。 ○遊びの内容が、固定化しているので、様々な運動遊びを紹介し、多様な動きを経験できるようにしていきたい。	B	○週1回のクラス遊びは学期によって実施回数にはばらつきがあった。 ○遊びの内容が、固定化しているので、様々な運動遊びを紹介し、多様な動きを経験できるようにしていきたい。	B	○体力向上を図ることは大切なことです。 ○先生とのコミュニケーション向上につなげてほしい。	○年度当初にクラス遊び年間30回以上実施という方針を全教員で確認し、クラス遊びが習慣化できるようにする。体育館遊びの日を有効活用する。	
教育の推進 共生社会の実現に向けた	○学びのユニバーサルデザインの視点を取り入れた際に適した指導の実施・充実	○巡回指導教員、特別支援教室専門員との連携を密にし、該当児童の指導改善に努めるとともに学びのユニバーサルデザインについて理解を深め、各学年での実施を推進する。	○各学年で児童の実態を把握し、学びのユニバーサルデザインの視点を取り入れた学習に1学期から必ず取り組む。	B	B	B	○パンビ教室に通っている児童は、担任と巡回指導教員、専門員が情報共有し、それぞれの児童の目標が達成できるように進められている。	B	○とても良い試みで、専門員の意見を聞くことは良いことだと思います。 ○校内の様子を説明していただき、引き続きお願いします。	B	○巡回心理士や特別支援専門員等と連携し、個別支援や指導の方法を助言してもらい、授業に活かすことができている。 ○パンビ教室に通っている児童は、担任と巡回指導教員、特別支援専門員が情報共有し、指導に当たることができた。	A	○いろいろな意見を聞くためにいろいろな経路を確保することはとても大切なことです。 ○指導員に合った視点でのアドバイスをいただき、授業などに活かしてください。	○担任と巡回指導教員が話す機会を増やし、共通理解や指導の充実を図る。 ○保護者への報告文を掲載することで、担任と密に打ち合わせをする時間をとったり、よりの確な指導につながるようにする。
	○異校種間交流の実施・充実	○都立鹿本学園との交流活動を充実させる。	○都立鹿本学園との交流を学期に1回行う。	B	A	B	○4年生が交流を進めている。1学期は、鹿本学園を訪問した。9月9日に書き手交換を行い、書き手交換をした。10月に2回目の交流、12月に3回目の交流を予定している。	A	○とても良い交流と思えます。続けてください。	A	○総合的な学習で学んできた福祉の学習と関連付け、交流を行うことになった。児童の理解が深まっており、交流で行ったポスターでは、鹿本学園の児童に自然と接することができ、とても良い交流となった。	A	○鹿本学園との交流はとてもよいことと思えます。 ○今後も継続してください。	○今年度実施した鹿本学園との交流に向けた総合的な学習の取組を体系化し、年間指導計画に位置付け、継続的に指導できるようにする。
	○地域の自然や人材を活用した教育活動の実施	○保護者によるボランティア、学校庭園を中心とした地域ボランティア等の組織・計画を整理、学校を支える支援体制を確立する。	○学習ボランティアが入る授業を各クラス学期に1回以上設定する。	B	B	B	○学習ボランティアの方は、主に1・2年生の算数の授業に入り、支援していただいている。ほかにも生活科の学習の支援をお願いしている。	A	○子供たちと地域の方との関わり合いにもなり、とても良い試みと思えます。 ○小さい頃から苦手な手先を鍛えるように算数の授業に入ることはいいと思えます。	B	○学習ボランティアの方々は、各学年の算数や生活科の授業に入り、支援していただいている。 ○3年生ではそろばんを4年生では書き手体験等で地域人材を活用し、児童の学びを深められた。	A	○地域の人のたちとの連携は大事だと思います。 ○学習ボランティアさんには、いつも助かります。	○地域人材を生かした授業について、年間指導計画で位置付け、継続的に指導できるようにする。
不登校の 充実に 対応	○一人一人のよさをのびし、人としての基礎をつくる	○人権尊重の精神に基づき、いじめのない学校、学校をつくり、子供全員が毎日楽しく安心して登校できる学校をつくる。	○いじめに関する実態調査を基に、学級指導や道徳の授業でいじめに関する学習を学期に1度は行う。	B	B	B	○毎年、6月と11月、2月にふれあひ月間期間に道徳でいじめに関する授業を扱うようにしている。1学期実施した。	A	○いじめの早期発見・早期解決の取組で、いじめがない学校にしてください。 ○毎朝あった時に担任以外の教職員にも児童が話しやすい環境をつくっていただきたいと思います。	B	○年間計画にあった3回のふれあひ月間を実施し、いじめの早期発見・早期解決に努めた。 ○毎週生活指導連絡会で、各学年の様子を伝え、全校共有し、継続的に対応できるようにしている。	A	○いじめのない学校運営の継続をお願いします。 ○先生たち全員で子供たちの情報を共有して迅速な対応をお願いします。	○いじめ該当児童の指導後3か月の見守りを実施する。 ○いじめ対策委員会にてアンケートをファイリングし、保管する。
	○OL-Gateの活用	○毎日下校前にOL-Gateを実施して児童の様子を見とり、課題の早期発見、対応に努める。	○OL-Gateを実施し、学級経営に生かす。	B	B	B	○毎日下校前に、今の気持ちや良いか悪いが2択で選んでいる。ほとんどの児童が毎日入力している。	A	○不登校が少ない事は先生方の努力だと思えます。 ○子供たちの意見や満足度を調べて活用するのは良いと思えます。	B	○毎日下校前にOL-Gateの実施で、児童の変化に気付けるようになり、トラブルの未然防止に努めている。	B	○先生たちの情報共有が大事です。 ○機器だけでなく声掛けをお願いします。	○OL-Gateでの見取りを引き継いで実施し、児童の変遷を早期発見できるように努めていく。
	○いじめのない学校を目指す	○6月、11月、2月にいじめ調査を実施して未然防止を図るとともに、案件は継続対応する。 ○いじめが発生した場合には、いじめ防止基本方針に基づき学習に即した校内委員会を決定させて早期対応に当たる。	○3年3回のいじめ調査を行い、いじめ案件の100%の解決を目指す。	B	B	B	○6月にアンケート実施。様々なことを考えている児童と個別に担任が面談をして話を聞き、解決している。全学年の状況をいじめ対策委員会で見直し、学校全体で解決していくようにしている。	B	○いじめ調査を行い、未然防止につながると思えますので続けてください。	B	○11月、2月にアンケート実施。いじめ対策委員会を呼び、全体で共有した。アンケートから対象児童に聞き取り等を行い、早期解決に努めることにより今後起きないように見守っている。	A	○アンケートを取って、意見を聞くことはよいことですので続けてください。 ○いじめの早期発見に努めてください。	○アンケート以外にも日々の児童の様子から変化に気付いたら毎週的生活指導連絡会で学校共有し、対応していく。
学校（園）開かれた 地域社会の実現	○地域のコミュニティとしての機能を果たし、地域発展の核となる学校	○児童の健全育成に向けて保護者、地域の参画を促し、学校の教育活動と目的を共有し、学校・家庭・地域の連携を図る。	○毎学期の学校公開や学校行事への参画を促し、教育活動の理解を深められるようにする。	B	B	B	○学校公開や学校行事の案内を出し、準備を呼び掛けている。学校からは、学習道具の準備などを呼び掛け、啓発している。	B	○子供の健全育成のために、学校・家庭・地域の協力は必要なことと思えます。	B	○保護者や地域と協力して子供たちの健全育成に努めている。tetoruを活用し、学校帰りや学年単位で学校での児童の様子を伝えたり、お知らせを配発したりできた。特に学級閉鎖等の緊急なお知らせは、すぐに配発し、対応できた。	B	○健全育成のために保護者や地域の連携はよいことですので続けてください。 ○保護者と一緒にイベントが多くできるといいですね。	○保護者と一緒に連携できるようにtetoruを活用を推進していく。
	○学校関係者評価の充実	○学校評議員会を年3回実施し、教育課程に対する意見をいただき、地域に開かれた学校づくりを行う。	○学校評議員会を学期に1回開催し、その都度、学校の教育活動に関する意見をいただく。	B	B	B	○年3回計画。計画通り9月30日時点で2回目まで実施。学校の状況を報告し、意見交換している。	A	○昨年度より、各学年が落ち着いている。学期に取り組みが変えられてうれしく思っています。 ○年3回の評議員会を続けてほしいです。	B	○年3回の学校評議員会を実施できた。 ○実施日が2回間になったため同じ教科の授業参観もなくなってしまった。	B	○年3回の評議員会はとても意義が感じられます。 ○授業の参観では丁寧な説明ありがとうございました。	○様々な教科の授業が見られるように3回とも異なる曜日で計画する。
	○学校（園）ホームページの充実等	○学校行事や保護者会、学校公開、定期的に発行する経過、ホームページ等、教育の成果を積極的に公開し、教育活動に対する理解と協力を得る。	○全学年がホームページのトップページを月に3回更新する。	B	B	B	○学校での様子は、ホームページで各学年1回以上は必ず上げられている。	B	○ホームページの更新をできるだけお願いします。 ○大変ですが、楽しみにしています。	B	○毎月1回以上、この学年で学校の様子をホームページに上げることができた。	A	○ホームページの更新は、まめにしたい。 ○通知機能があれば保護者に通知して、興味を持ってもらえたらありがたい。	○定期的に更新ができるように行事を実施した際はホームページに掲載できるようにしていく。
教育の展開 特色ある	○「学校における働き方改革プラン」	○定時退勤日を週に1回水曜日に設定し、水曜日に定時退勤できない職員に対しては別日定時退勤するように促す。	○月の時間外労働時間40時間以内を目指す。また、定時退勤日は定時退勤の教員の割合80%を目指す。	B	B	B	○定時退勤を呼び掛け、教職員は基本的に定時退勤するように促した。4時間以上の教職員には、声を掛け、4時間以上が継続しないようにしている。	B	○時間外労働はできるだけ少なくしてもらいたい。 ○残業が少なくなった。	B	○週時で6時間目標時刻が15時となり、教材研究が少なくなった。 ○運動時刻にチャイムを設け、定時退勤の意識向上につながった。職員全体が定時退勤を目標し職務を行う雰囲気になってきた。	B	○先生方の負担をなくすためにも定時退勤を促してください。 ○先生たちのメリハリのある働き方を期待しています。	○どの職員もなるべく時間外勤務がなくなるように、校務分掌に振り出さないようにするとともに引き続き、会議や授業等の精選をしていく。
	○教員研修の実施	○学年組織、分掌組編及び運営を工夫し、OJTを通じた育成に努める。 ○オンラインワーク、臨場、経験等に応じた研修に努め、教員職員としての自己実現をめざす。	○全教員年2回の授業観察及び指導者を行う。	B	B	B	○管理職が1学期に全教員の授業観察をした。今後2回目を実施する。他にOJTとして教員が積極的に自分の強みを生かした内容について講師となって、校務の教員に伝えられている。3学期までに全員が終わる予定で計画通りに進めている。	B	○経験の浅い先生方の適性を踏まえて指導することは大切なことです。	B	○教員一人一人がOJTを推進し、臨場や経験、専門性を生かした研修によって一人一人の質の向上と教員間土のつながりの強化にもつながった。	○OJTが、教員の強みを生かした内容で実施し、明日からの授業に役立つ内容を上げられるようにする。		
	○姉妹校との交流	○朝陽第三小学校との交流を充実させる。	○朝陽第三小学校（5年生）各学年1回実施する。	B	B	B	○2学期より5年生が交流する。 ○来年度10年5月にセカンドスクールで5年生が朝陽第三小学校へ行くので計画を進めている。	B	○歴史のある交流なので、これからも続けてほしい。	B	○1月に5年生が朝陽第三小学校の児童とオンライン交流した。各校の紹介や職員会の作品紹介を話し合い、交流を深められた。 ○来年度のセカンドスクールに向け準備を進め、10月6日から9日の実施日程が決まった。	A	○これからも続けてください。 ○オンラインを通していろいろなことを交流していただきたい。	○来年度はセカンドスクールでの交流があるので、特に交流しやすい内容を児童や教員の負担にならないように計画的に実施できるようにしていく。